

第二回「空港グラウンドハンドリング作業の生産性向上に資する技術検討会」議事概要

日時：2024年8月9日（金）9：00～11：00

場所：中央合同庁舎2号館会議室＋Microsoft Teams 会議

議事次第に沿って、事務局から資料の説明を行い、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

【手荷物作業の現状と課題】

- 手荷物の作業は長年仕事の仕方が変わっておらず、働く方々のマインドを積極的に変わっていくことができていない状況。意識改革が並行して行われる必要がある。
- 技術を単純に導入するだけではすぐに人員削減につながらない。導入だけでなく、施設や作業方法、手荷物の預かり方等の機械だけではどうにもならない部分をどうするか。協業領域で、航空会社間を超えて考える必要がある。
- 働く方々の労働環境を改善し、定着を促すという省人化・省力化・自動化が進められるべきである。
- 現場の従業員の声が聞かれぬまま、標準的な空港設計・施工がされている。施工会社・設計側と、ユーザー側・労働安全性の観点から、議論する必要があるのではないかな。
- 早期預かりを観光のためにコインロッカー代わりに利用するなど、本来であればお客さんにご負担いただくべきことでもある。業界だけが頑張るのではなく、費用感として旅客側にも求めていく必要があると思ったところ。
- 一般的にロボットの技術は、システムをインテグレートするような技術がまだまだ未熟なところがあり、ニーズを受けて一番いいインテグレーションの方法を提供することは出来ていない。現場の方のユーザビリティ、使い易さ、色々なヒューマンインターフェースも含めて十分考慮する必要がある。
- 実装・検証サイクルを回しながら徐々に改善していくことを目指すとともに、働く側も新しい技術の導入に対し、長期的なメリットを確認してもらいながら進めることが重要と考えている。

【生産性向上方策（素案）】

- 手際よく荷物が搭載されているように見えるが、一つ一つの作業の中で積み上げて、ばらしてということが繰り返されている。スキャニングの技術は発地、着地で連携することが協力というのは同意。これらの技術をどのように実装に向けて考えていけばよいか検討が必要。
- 事業者によって必要となる技術が異なる場合もある。そのため、ガイドラインとして示すなど、個別の空港でも必要になるものなど今後示す必要がある。

- 積付の技術については、海外の自動化事例にも好事例はあると思うので追加調査いただければと思う。
- 追跡技術については整理いただいて一長一短があることは理解した。調査いただいた事例に加えて、ブロックチェーン技術は様々な場面のトレーサビリティに使われているので、本件にも応用できるのではないかな。
- 資料のマトリックス表については、分かりやすく整理されているが、その内容をセンシングやプランニングの観点、もう1つはハンドリングの観点で2種類に分けた方が良さそう。そのうえで、既存技術と先進技術に分けた方がいい。
- ロボットアームを使う場合、周辺に人が介在して良いのか安全性の確認が必要だろう。コンベアを基本にする場合も含め、予算・空間等の制約が課題になってくるだろう。
- 空港のサイズは大規模・小規模があるが、地方空港の生産性向上も必要である。
- 実際に新技術を空港に導入すると、人手でやった方がいいという事例はいくつかある。実装する技術をどのように活用するか合わせて検討していく必要がある。
- **RFID** は追跡だけでなく、手荷物の個数をカウントするところでも使える技術であるが、コスト面の課題が大きく、有用なものを実装できていない。
- 現場視点だと、どうしても短期的かつ省力化に意識が向いてしまうが、意識改革も含めてどのように業務を変えていけるか検討したい。中長期的な視点での省力化・自動化は、引き続き国側のリーダーシップで検討を進めていただきたい。

以上